

平成 28 年度の事業概況

営農事業

お米の振興

- 平成 28 年 11 月、第 1 回 J A たじま営農振興大会を開催し、「J A たじま営農・畜産振興方策 2020」を組合員へ発表しました。
- 酒造好適米であるフクノハナ、兵庫北錦を中心に、酒造会社の要望等に応えるため、意見交換会を開催しました。
- コウノトリ育むお米生産部会、つちかおり米協議会を中心に、田植や生きもの調査、稲刈りなど消費者との交流会を通じて、産地 P R と食農教育活動に取り組みました。
- コウノトリ育むお米の P R と販売拡大につなげるため、歌舞伎役者の片岡愛之助さんをイメージキャラクターとした販売促進活動をはじめました。
- 中東のドバイで開催された国際総合食品見本市「ガルフード 2017」へコウノトリ育むお米を出展し、本格的な輸出に向けた P R を行いました。

特産物の振興

- たじまピーマンの産地拡大と安定生産に向けて部会員の募集を行うとともに、拍動灌水装置設置の推進やピーマン包装施設の作業効率の向上をはかりました。
- 朝倉さんしょの栽培本数増大に取り組むとともに、冷凍加工による通年販売を行い、ブランド力の強化をはかりました。
- 有機農業者の増加と地域の自然環境の保全を目的とした有機農業教室を、豊岡営農生活センターを会場として開催しました。

営農指導・利用・資材・農機事業

- 水稻の生産コスト削減に向けて、肥料実験の結果、新たに基肥一発肥料「有機入りエムコート 288」を導入しました。
- 新たに、以前から要望のあった「プール育苗」に取り組み、「コウノトリ育むお米の 30 日苗」を供給しました。

- 水稻種子生産の高品質化と作業の効率化を目的に、養父水稻種子センターの能力増強を実施しました。
- 担い手支援センターを設立し、担い手農家や営農組織などへの支援活動に取り組みました。
- 「J A たじま農業機械安全使用協議会」による農業者向け労災保険の普及拡大に取り組みました。
- 水稻栽培暦の変更に伴い、採用した肥料の価格を重点的に下げて生産コストの低減につとめました。
- 農作業事故減少に向けて、営農組合や生産部会で安全講習会を開催しました。

直売所の活動

- 開店 6 年目のファーマーズマーケット「たじまんま」は、地域の方はもとより、多くの観光客にご来店をいただきました。
- 品揃えの一層の充実に向けて、出荷登録者数の拡大につとめました。
- 栽培講習会・出荷者大会では手取りの向上に向けて、新しい品目・花卉類などの情報を積極的に提供しました。
- 7 月に開催した「創業祭」会場には、全国各地より 17 の提携 J A による特産品の対面販売を行い、会場を盛り上げました。
- 豊岡北、出石、香住、浜坂の朝市のほか、豊岡、日高、養父、和田山の量販店内のインショップ「農協の八百屋さん」として、直売所の活動に取り組みました。

畜産事業

繁殖和牛・但馬産肥育牛の振興

- 全国で子牛価格が上昇するなか、但馬牛の継続的な改良方針が高く評価され、但馬家畜市場は昨年・一昨年に引き続き子牛平均価格全国 1 位となりました。
- 第 98 回兵庫県畜産共進会が淡路家畜市場で開催され、J A たじま管内から種牛の部 12 頭、肉牛の部に 7 頭が出場してどちらも最高位

を独占しました。また、両部門でJAたじまが3年連続団体優勝を果たしました。

- 国の畜産クラスター事業を活用した牛舎・堆肥舎を取得し、新規就農者2件を含む3経営体に貸付しました。

但馬牛のブランドを高める肉の店

- 兵庫県畜産共進会に出品された地元牛3頭を購入し、特別頒布企画や旅館・レストランでの特別メニュー用として販売しました。
- 但馬以外の方にも但馬牛の魅力を知ってもらうため、ふるさと納税の謝礼品としての提供や、インターネット販売に取り組みました。

福祉・経済・生活事業

くらしに安心を与える福祉事業

- 豊岡・浜坂・八鹿・和田山の各介護センターで訪問介護事業・居宅介護支援事業に加えて高齢者生活支援事業に取り組み、多くの方にご利用いただきました。
- 質の高い介護サービスを安定的に提供できるよう、各種研修会への参加による知識・技術習得をはかったほか、ヘルパー勉強会の充実を行い、更衣介助・ターミナルケア・口腔ケア等、スキルアップにつとめました。

くらしの安全・安心を守る生活購買事業

- 国産原料商品を中心とした、安全・安心でくらしに役立つ商品を、「JAくらしの宅配便」を通して女性会員や組合員へお届けしました。

快適で環境にやさしいLPガス事業

- 24時間365日体制で、利用者の保安体制を堅持しました。特に高齢世帯への配慮として、器具の点検と安全指導を行う「シルバーサポート活動」に取り組みました。
- ガス器具合同展示会(ウィズガステん)をたじまんま隣接地で開催し、多くのお客様にご来場いただきました。

健康で文化的な生活を応援する生活文化事業・旅行事業

- 女性会の生活文化活動や健康福祉活動、組織購買に対する支援を行いました。
- 組合員の健康管理の一環として、町ぐるみ健診、特定健診を実施しました。また、ふれあい祭りなどのイベント来場者に向けた骨粗しょう症健診を実施しました。
- 各支部単位で年金友の会旅行を実施し、多くの方に参加・交流いただきました。
- JAたじま海外特別企画として、「マカオと香港4日間」「ゴールドコースト・シドニー6日間」を実施しました。

信用事業（地域密着型金融への取り組み）

農業メインバンクとしての取り組み

- 「農業」メインバンクとして地域の営農振興をサポートするため、「担い手応援営農資金」等の提供に取り組みました。

生活メインバンクとしての取り組み

- 兵庫県下統一の貯金キャンペーンに加え、JAたじま独自に但馬農産物が当たるキャンペーンを展開し、多くの方にご利用いただきました。
- 裁定請求をされる際など、多くの方に、年金の受給口座をJAにご指定いただきました。
- 住宅ローン・年金等の資金ニーズに対応するため、全店統一の休日相談会を開催しました。

利用者満足度の向上

- 各種研修会の開催や資格取得を通じて、職員の知識や対応力の向上につとめました。
- 組合員・利用者からの相談対応の場として、各種相談会を開催しました。
- 年金友の会会員へのサービスとして、新たに喜寿・米寿のプレゼントを開始しました。
- 会員相互の親睦を深めるため、年金友の会で各種イベントを開催しました。

共済事業

ひと・いえ・くるまの総合保障の拡大

- 世帯の保障点検活動「3Q訪問活動」を通じて、JA共済の普及拡大につとめました。

もっと便利に、さらに安心

- 新たにタブレット端末「Lablet's (ラブレッツ)」を導入し、よりきめ細やかな保障点検と提案活動を行いました。
- 広域災害の発生に備えて損害調査体制の充実につとめました。
- 事故発生時の迅速な対応につとめるとともに、事故などに関して安心してご相談いただけるよう、弁護士による交通事故相談活動を実施しました。
- 自動車損害調査体制の再構築を行い、平成29年2月1日より、共済連とJAが一体的に運営する「JA共済連但馬サービスオフィス」を設立するとともに、4つの事故相談センターを八鹿に集約しました。

組織面の活動

- 地域の活性化を目指し、組合員、支店運営委員会、役職員が協力して、「地域ふれあい活動」に取り組みました。
- ママ友くらぶの開催を通じて、子育て世代の女性を応援し、女性会フレッシュミズ会員募集などの仲間づくりに取り組みました。

教育・学習の活動

- 農と食のつながりを楽しく学び、但馬の農業を好きになってもらうため、地元の農家などに協力いただいて、小学生を対象とした食農体験教室「あぐりキッズスクール」を、日高、村岡、八鹿の3会場で開催しました。

地域貢献活動

- 地域の活性化を目的に、婚活支援事業に取り組みました。
- スポーツを通じた健康づくりや仲間づくり

を応援するため、「JAたじま杯」として地域のスポーツ大会(少年サッカー、小学生バレーボール、婦人バレーボール、少年野球、小学生卓球)に協賛しました。



【↑地域ふれあい活動 (ボランティア清掃)】



【↑JAたじま杯 (野球大会)】

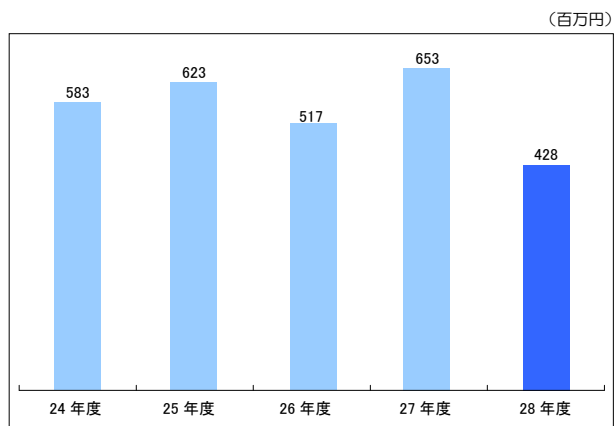


【↑あぐりキッズスクール】

平成 28 年度の主な業績について

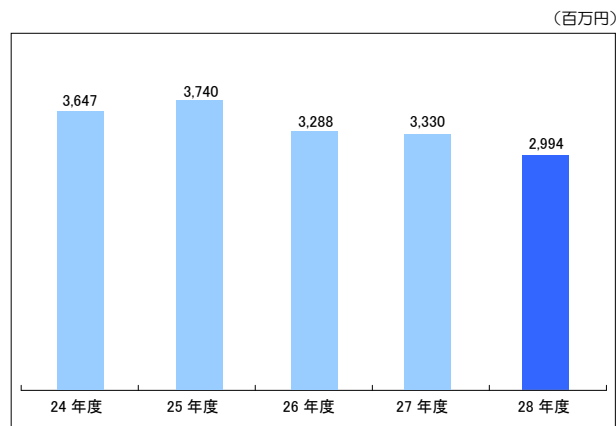
■ 事業利益

4 億 2,800 万円



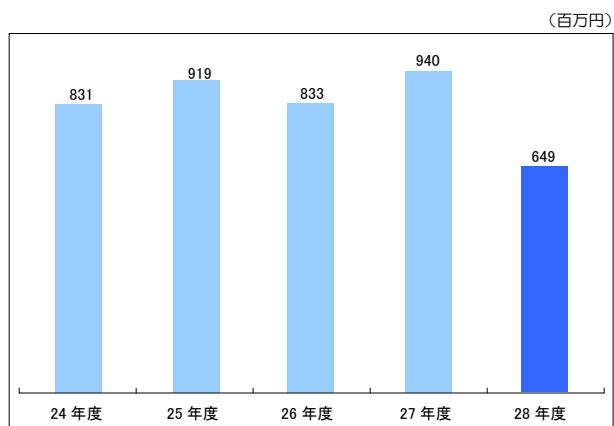
■ 購買品取扱高

29 億 9,403 万円



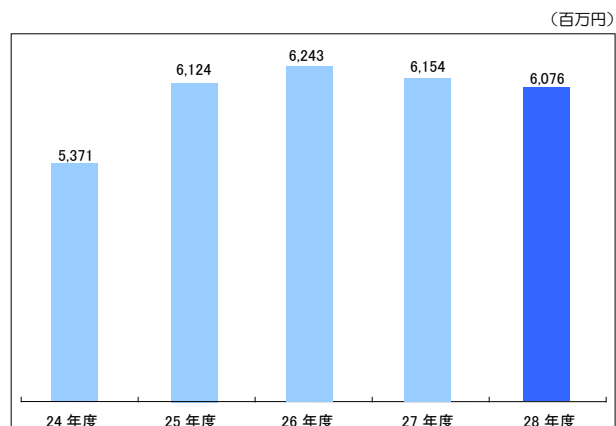
■ 経常利益

6 億 4,955 万円



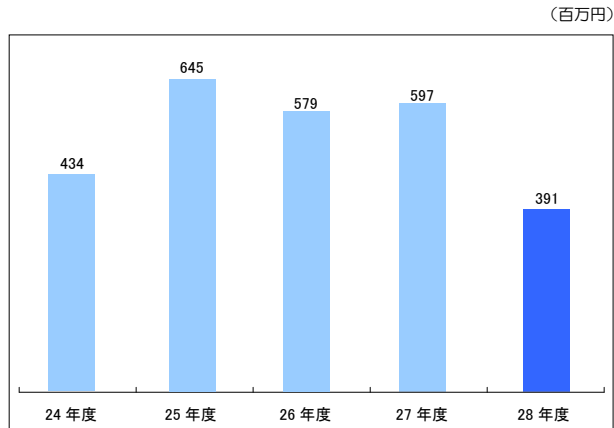
■ 販売品取扱高 (受託販売)

60 億 7,646 万円



■ 当期剰余金

3 億 9,191 万円



J A たじまでは、平成 25 年度決算にかかる配当より、出資配当に加え、新たに事業分量配当を導入しています。

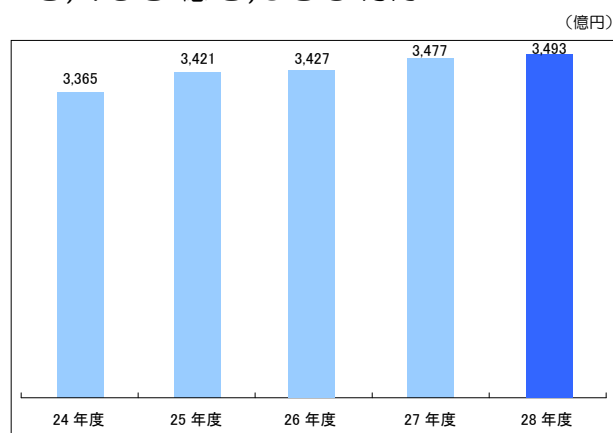
これは、「協同組合は利用者組織であり、組合員の事業利用によって生み出された剰余金は出来る限り組合員事業利用者へ還元する」という考えから導入したものです。

配当基準等については、41 ページの剰余金処分計算書をご覧ください。

平成 28 年度の主な業績について

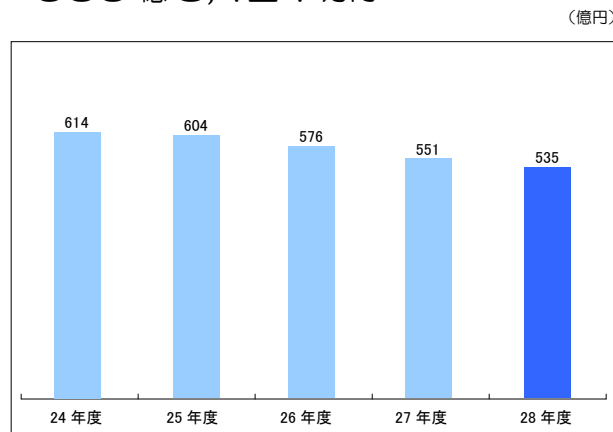
■貯金残高

3,493 億 3,036 万円



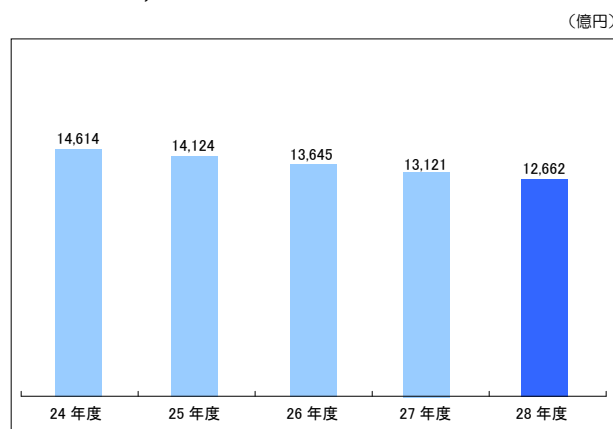
■貸出金残高

535 億 8,424 万円



■長期共済保有高

1 兆 2,662 億円

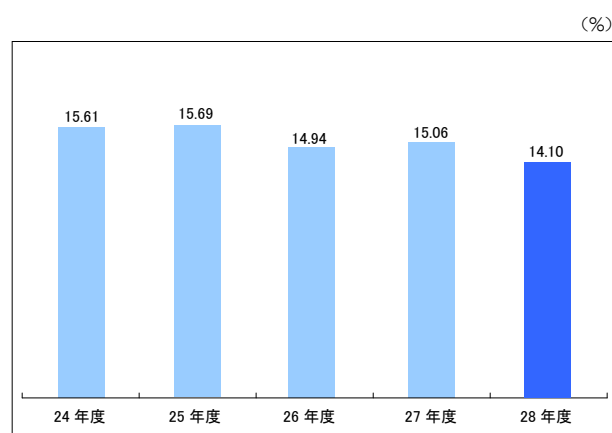


平成 28 年度の自己資本の状況

■自己資本比率

14.10%

当 JA では、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保につとめるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、平成 29 年 3 月末における自己資本比率は、14.10%となりました。(パーゼルⅢ規制に基づき算出)



■普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	たじま農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る 基礎項目に算入した額	4,570 百万円 (前年度 4,616 百万円)

自己資本の詳細については、55 ページをご覧ください。